

へ"議会だより っかい

第87号

2018年11月

炭火で香ばしく焼き上げられた西別鮭の串焼き

北海道胆振東部地震からの早期復旧へ向けて.....	2
議会傍聴インタビュー.....	5
町政のここが聞きたい.....	7
一般質問（西原、中村、外山、木嶋の4議員）	
「読みやすくわかりやすい」広報誌作りを.....	12

シリーズ まちの宝物 自然の恵みを味わう別海グルメ.....18



北海道別海町議会



搾乳施設をはじめ、現在の酪農作業に電気は欠かせない

9月11日から14日までの4日間、第3回定例会が開催されました

平成30年北海道胆振東部地震からの 早期復旧へ向けて

9月6日の深夜に発生した北海道胆振東部地震により、震源地付近の揺れによる直接的な被害に加え、北海道全域が長時間停電するという想定外の事態に陥りました。

この広域停電により物流、インフラなどのライフラインに大きな影響が発生し、道民生活に大きな被害をもたらしました。当町は停電の全面復旧までに43時間を要し、大変不安な生活を余儀なくされ、その後も物流の復旧には時間がかかり大きな支障が出たところです。

水道には大きな影響が出ず、断水しなかったのは不幸中の幸いですが、予備電源が確保できず搾乳を行えなかった牧場では乳房炎が発生し、今期の牧草の不作とあわせて今後大きな被害になると予想されます。

商業や漁業、観光業においても停電の影響は大きく、早期復旧と大規模停電時の対策について、今後検討していく必要があります。

早期復旧に向けた意見書を 国に提出（提出者 西原 浩 議員）

震災からの早期復旧には国からの支援が欠かせないため意見書を提出しました。意見書の概要は以下のとおりです。

(1)地震に伴う災害について激甚災害指定をすること。

(2)復興に要する経費に対して自治体へ財政上の支援を行うこと。

(3)被災者が元の生活に戻るための支援制度および財政支援を行うこと。

(4)停電被害の甚大な農林水産、関連加工製造、商工など被災した中小企業に総合的な支援を行うこと。

根室地域は、今後30年でマグニチュード8クラスの巨大地震が80%の確率で発生すると予測されています。

第3回定例会は地震から5日後に行われたということもあり、全ての被害状況の把握や対策について、十分な議論をすることはできませんでした。

今後、今回の震災の経験を活かし、さらに災害に強い地域づくりに取り組む必要があります。議会全体での議論はもちろんのこと、各委員会が主体となりそれぞれの分野での地震を含めた災害対策を議論していきます。

定例会の議案審議と主な内容

子どもの目線にあった教育を

学校支援員は、個別の支援が必要な子どもたちに、担任の先生と一緒に学習や生活の介助などに携わる先生のことです。担当の子どもと一緒にいる時間が長く、気配りと目配りをしながら接しています。幼稚園2園、中学校9校に配置され、昨年度より3名増員する予定です。

今年も活躍しています



全道大会出場の別海中央中学校吹奏楽部

部活動や文化活動などで全道・全国大会に出場する際に旅費などを、今回の補正を含め367万円補助しています。今年度は別海高校女子バレー部、別海中

央中学校の吹奏楽部などが全国大会に出場しています。

将来の酪農を担う人材育成

別海高校の酪農専攻科の酪農後継者を対象に海外研修を実施しています。

今回は、男子4名と引率教諭1名が11月4日から12日までカナダのトロント市やケベック州での農家視察研修を行う予定です。

また、世界最大級の家畜共進会「ロイヤルウインターフェア」の見学会も予定しています。カナダの酪農の様子を見学したり、酪農家と直接の対話を通して、将来の酪農経営を学ぶことができます。

帰国後には、海外研修報告会が行われ、体験と将来の夢を発表します。



世界最大級の酪農イベントを視察する

町有財産を町内会に譲与

用途を廃止した土地を除く町有の普通財産を、当該施設のある地域の町内会など地縁団体に譲与ができるよう、条例の一部を改正しました。



譲渡を予定している公営住宅跡地

公営住宅を補修します



工事の始まった中春別公営住宅

平成17年に建設された中春別団地4号棟の屋根側面部分の取り替え工事とイエスタウン寿団地の部屋の補修を219万円で実施します。

高速無線通信サービスが改善



高速無線通信サービスの品質向上を目的として、別海市街の北側にある中継局の回線を増強します。主に中春別、尾岱沼方面の通信速度が改善されます。

合併処理浄化槽の設置進む

合併処理浄化槽設置の全体計画は1200基で、28年度末では855基まで進みました。

毎年30基を予算化していますが、今年度は予算を追加（350万円）し34基見込んでいます。

補助金交付申請が必要で、上限額は5人槽が111万円、7人槽が133万円、10人槽が166万円となっています。

【問い合わせ先】 上下水道課 維持担当
TEL 0153-751211（内線4517）

水道施設の無線伝送装置更新

電波法の改正により、水道施設の無線伝送装置が使用できなくなるため、1億1050万円を増額し全面更新します。現在の施設はすでに21年経過しており、老朽化が進んでいます。

平成30年度に、国の農業水路等長寿命化事業が創設され、その補助事業を活用し更新することとなりました。

無線装置は各水道施設（30局）とデータのやり取りを行い、バルブの操作などを水道管理センターで一括管理を行っています。



無線装置を利用し水道施設を集中管理している

中春別農協 ミルクローリー車更新



10トン車の老朽化にともない15トン車に更新（1台）されます。耐用年数は15年で計画的に代替を行い、町が2分の1の補助を行います。

森林の適切な管理に向け調査

来年4月から施行される森林経営管理法により、所有者が適切に森林を管理する責任が明確化されました。

手入れが行き届いていない私有林に対しては、市町村を介して森林組合などが管理を集約することになります。

町では、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、273万円の予算で、今年度中に状況を調査します。

定例会の議案審議と主な内容

林業・木材産業の意見書提出

(提出者 佐藤 初雄 議員)

本道の森林は、全国の森林面積の約4分の1を占めています。

森林は、国土保全、地球温暖化防止など多面的な機能を持っているため、森林の整備と森林資源の循環利用を進める必要があります。

本意見書は、木材を積極的に利活用し、林業・木材産業の雇用・所得の拡大をはかり、成長産業化へ向けた施策の充実強化を要望するものです。

別海町教育委員の選任

任期満了にともない、粥川一芳さん(西春別駅前)の再任に同意しました。

任期は、平成30年10月12日から平成34年10月11日までの4年間です。



粥川 一芳 さん

議会傍聴インタビュー

平成30年第3回定例会2日目の一般質問を傍聴された方にお話を伺いました。

中春別町内会会長 降旗 和人さん
北海学園大学 2年 成田 匠さん

広報…議会を傍聴された感想は？

降旗…傍聴は2回目で、議会運営は気がぬけない場だと思った。今回バイオガス発電施設の質疑を初めて聞いたが、いろいろ問題があり大変な状況だと感じた。

成田…これまで、自分の住む町の問題や活性化など考えたことがなかった。今回傍聴し、一生懸命まちづくりをしようとする姿が伝わり、議会の大切さを改めて感じる事ができた。議員それぞれ質問の内容に特徴があった。新しいまちづくりの計画提案や、同じ失敗を繰り返さないための指摘などがあり興味深かった。

広報…議会だよりの感想や要望は？

降旗…文章もよくわかるよう丁寧に書かれており、毎回読んでいます。写真にまず目が行く。写真が多い誌面であると読みやすく、わかりやすい。



降旗 和人さん

成田 匠さん

議会活動についての質問

降旗…本会議の一般質問では、予定の内容から外れる質問ができないルールのようなが、どこかの場面でさらに深く質問することができているのか。

広報…議員は、一般質問だけでなく、常任委員会においてより突っ込んだ調査をすることが可能である。常任委員会の活動は、議会だよりの誌面やホームページ、議会報告会において住民の皆さんに報告している。

第3回定例会 議事一覧（9月11日～14日）

日程番号	件 名
日程第1	会議録署名議員の指名
日程第2	議会運営委員会報告
日程第3	会期決定の件
日程第4	諸般の報告
日程第5	行政報告
日程第6	提出案件の概要説明
日程第7	平成30年度別海町一般会計補正予算（第3号）
日程第8	平成30年度別海町介護保険特別会計補正予算（第1号）
日程第9	平成30年度町立別海病院事業会計補正予算（第2号）
日程第10	平成30年度別海町水道事業会計補正予算（第1号）
日程第11	別海町財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第12	別海町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について
日程第13	工事請負契約の締結について（上西春別中学校旧校舎・旧講堂とりこわし工事）
日程第14	平成29年度別海町一般会計歳入歳出決算認定について
日程第15	平成29年度別海町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第16	平成29年度別海町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第17	平成29年度別海町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第18	平成29年度別海町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第19	平成29年度別海町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第20	平成29年度町立別海病院事業会計決算認定について
日程第21	平成29年度別海町水道事業会計決算認定について
日程第22	別海町教育委員会委員の任命について
日程第23	放棄した債権の報告について
日程第24	平成29年度決算に基づく別海町健全化判断比率及び資金不足比率について

※ 以上、定例会初日の日程です。

第3回定例会 一般質問

町政のここが聞きたい

第3回定例会では2日目（9月12日）に4議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）

■ 西原 浩 議員…………… 8

- 1 町営スケートリンクの改修整備の計画は
- 2 別海市街地地区の物産館の建設の検討状況は

■ 中村 忠士 議員…………… 9

- 1 (株)別海バイオガス発電が14億円の特別損失を出したのはなぜか
- 2 生涯学習センターは障がいを持った人でも気軽に立ち寄れるように

■ 外山 浩司 議員……………10

- 1 閉校した別海小学校を学校資料館として整備しては
- 2 「ふるさと別海」を学ぶためにも北方領土学習を
- 3 ICT教育の充実により学習効果の向上を

■ 木嶋 悦寛 議員……………11

- 1 健全な財政運営と判断される財政調整基金保有額の目安は
- 2 観光・農業、深刻度を増すエゾシカ対策は

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

別海町議会

検索

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。



西原 浩議員

町営スケートリンクの 改修整備の計画は

山田教育部長 第7次別海町総合計画の中で検討する

質問 町営スケートリンクは、多くの子どもたちや少年団が活用し、これまでさまざまな大会で活躍する選手が育っている。

しかしながら、少子化により少年団の団員数が減少し、比例してスケートリンク造成者が不足している。

もう少しリンクが造成しやすく、使用期間が延びるように改修整備を行う考えはあるか。

山田教育部長 町営スケートリンクについては、昭和56年に、1週400メートルの公認コースとして全面アスファルト舗装により建設をしている。

建設から37年が経過し、コース面にはクラック(ひび割れ)も目立つ状況にある。5億2000万円の改修費などの経費試算も踏まえ、来年度からの第7次別海町総合計画の中で、建設場所の選定を含めて、リンクの改築はもちろんのこと、

管理体制においても検討をしていきたいと考えている。

質問 「別海高校への入学者を増やすために、スケートの指導員を採用してはどうか」という地域の声に対する所見は。

山田教育部長 別海高校への支援策として、スポーツに限らず外部指導者派遣事業を行っているので、高校の意向を踏まえて、それらの活用を含め、町としても積極的に支援していきたいと考えている。

別海市街地地区における物産館建設の 検討状況は

質問 別海市街地においても有力な集客施設である中央公民館の建て替えを契機として、市街地の活性化に向けた行政と事業者双方からの積極的な取り組み

が町民から求められている。
物産館の建設についてどのような検討がされているのか。

登藤産業振興部長 商工会との協議の中では、物産館を町において新築してほしいと要望を受けたが、町としては、交流館「ぶらと」を改修し、一定期間の試験的営業を行い、あり方を検討する必要があると考えている。商工会においても国の補助の活用を含め検討していると聞いている。

物産館については、町内でつくられた商品が町内で買えるようになることで域内循環の促進になるため、必要性があると考えている。



整備が求められる別海市街地のスケートリンク



困難な経営が続く(株)別海バイオガス発電



中村忠士議員

(株)別海バイオガス発電が14億円の特別損失を出したのはなぜか

佐藤副町長

見通しが甘かったと言わざるをえない

質問 (株)別海バイオガス発電は、本格稼働しての3年間で4億7000万円の赤字を出した。経営的な大失策だ。このような事態がどうして起きたのか。

また、施設運転、メンテナンス費用などが当初の予定を大幅に超えたことが原因だと報告を受けている。

質問 機械の故障などのメンテナンス費用は、どのくらいかったのか。

登藤産業振興部長 当初計画では約6500万円を見込んでいたが、1億9500万円に大きくはね上がった。

質問 14億円の特別損失を出しているが、巨額な損失がどうして出たのか。

登藤産業振興部長 3期連続で経常赤字となっており、今後も大幅な改善が見込めないことから、投資した金額が回収できないと判断される部分を損失として処理した。

佐藤副町長 やはり当初の計画が甘かった

たと言わざるを得ないと認識している。

質問 赤字や損失を補填するためにさなる町費の投入はあってはならない。

また、稼働から15年後には施設を町に移譲することになっているが、絶対受けべきでない。

登藤産業振興部長 現時点において、これ以上の町費投入は考えていない。移譲については、再建計画の実施状況を検証し判断する。

生涯学習センターは障がいを持った人でも気軽に立ち寄れるように

質問 生涯学習センターは障がいを持った人にどのような配慮をしているか。

山岸準備室長 視覚障がい者には誘導ブロック、手すりによる誘導、トイレなどには人感センサーによる照明や換気扇を設置し、スイッチなどには点字表示を取りつける。

聴覚障がい者のためには、受付に筆談器を用意し、対応する。また、集団補聴装置を大ホールや会議室に設けることとしている。



外山浩司議員

閉校した別海小学校を
学校資料館として整備しては

伊藤教育長
資料館などの活用方法を含め検討する

質問 当町には、小学校33校、中学校12校、小中併置校10校の計55校があったが、39校が閉校した。

閉校した学校の校旗などの保管状況は。

山田教育部長 平成8年度以降に閉校

した学校の校旗、校章、沿革史は、統合校や地域会館に保管をしている。

その他の学校は、現在確認作業中である。

質問 3年前に閉校した別海小学校は、

明治3年に開校した別海町の教育発祥の地である。

この学校を資料館として整備し、学校資料を展示、保存する構想を持っているか。

伊藤教育長

別海小学校の利活用については、維持管理および耐震性を理由に解体を望む地元町内会の意向を踏まえ、

今後、庁内での協議を進め、資料館などの活用方法を含め検討を進めていく。

「ふるさと別海」を学ぶためにも北方領土学習を

質問 元島民から「学校で北方領土に

ついてきちんと勉強しているのか」などの声が聞かれる。

北方領土学習の取り組みの状況は。

山田教育部長

学習指導要領の趣旨を



北方領土学習に使用している副読本「べっかい」

踏まえ、児童生徒が自ら調べる学習や元島民の講話など、身近な問題として捉えられるように工夫した指導を行っている。

質問 北方領土学習について教育委員会の方針は。

伊藤教育長

当町の将来を担う子どもたちが、北方領土について正しい知識と理解を深めることが大切である。

根室管内北方領土学習研究会などの連携、北方領土学習研究大会への支援、社会科副読本「べっかい」の一層の有効活用を検討していく。

ICT教育の充実により学習効果の向上を

質問

各学校でのICT関連の教育機器の活用状況は。

山田教育部長

平成27年度からICT教育環境の整備の充実に努めており、今では、各校で実物投影機、タブレットなどが日常的に活用されている。

特別な支援が必要な児童生徒には、教員がタブレットを使用し、一人一人に応じた指導を行っている。

一般質問



木嶋悦寛議員

健全な財政運営と判断される 財政調整基金保有額の目安は

竹中総務部長

当町はおおむね20億円が目安となる

質問

※1 財政調整基金の保有額は財政健全化の指標の一つとなっている。当町の財政調整基金保有額の目安は。

竹中総務部長

各自治体の事情により異なるが、有識者によれば※2 標準財政規模の10%から20%とされる。

当町の標準財政規模は近年95億円前後であり、その20%とした場合、おおむね20億円程度が基金保有額のめやすとなる。

※1 財政調整基金

自治体が財源に余裕がある時に積み立てて、交付税減額など財源が不足したり、必要な事業に自己財源として使うために取り崩したりする預金のようなもの

※2 標準財政規模

町における税収額に普通交付税額を足した金額を指す

質問

前町長時代に20億円以上の財政調整基金を保有していた。曽根町長となっ

てから地域活性化を狙ってのことと考えるが、積極的な財政出動を行っている。

町長の財政運営の考え方は。

曽根町長

積極的な経済対策だけではなく、体育館の維持補修など公共施設の老朽化対策に多額の費用が必要であった。給食センター、生涯学習センターの建設は喫緊に必要な事業であるが、その他は大きな投資を予定していないので、できるだけ健全な財政運営をしながら、町民生活の利便性を高めるのが私の仕事である。

質問

財政調整基金以外の目的を持った基金の保有比率をもっと高める必要があるのでは。

佐藤副町長

特定目的基金への積立ては重要だが、今後、財政調整基金の減額は避けられず、財政運営も工夫が必要だ。

新たに始まる第7次別海町総合計画のまちづくりを念頭において、行財政改革を進め、特定目的基金の充実についても検討していかなければならないと考える。

観光・農業、深刻度を増すエゾシカ対策は

質問

エゾシカ被害対策の考え方は。

門脇産業振興部次長

平成32年度までの3力年を計画期間とする、別海町鳥獣被害防止計画に被害軽減目標を定めて取り組んでいる。



黄色く可憐なエゾカンゾウの花が消えてしまった野付半島(本年7月)

「読みやすくわかりやすい」

広報誌作りを

議会広報誌は、町政のさまざまな情報を町民に伝えることを目的に、平成9年「べっかい町議会だより」として創刊号が発行され、ことしで22年目を迎えました。

広報・広聴常任委員会は、当初の目的を忘れず、「読みやすくわかりやすい」広報誌作りをめざし、見出しや写真、レイアウトを工夫しながら、研鑽を深め、編集に取り組んでいます。

特に、表紙と裏表紙は繋がりのある構



議会だよりの歴史はこの創刊号からはじまった

成としており、8年前から「まちの宝物」シリーズと銘打って編集しており、2年前からは、町制施行50年・開基150年を見据えて、記憶に残し、後世に伝えたいことを「まちの宝物」として紹介しています。

「気軽にコミュニケーション」が図れる場を

広報・広聴常任委員会は、4年前から住民の声を議会活動に反映させる広聴活動も担当しています。

別海町議会は、今年で9年目を迎える「議会報告会」に加え、「議会モニター制度」や「意見交換会制度」を取り入れました。

これらの制度の活用により、議会と町民の皆さんが気軽にコミュニケーションを図ることができるよう取り組んでいます。

「広報」と「広聴」は議会活動の根幹

議会の務めは、多くの町民の声を拾い、調査活動などを行い、その結果を町民に伝えることであり、「広報」と「広聴」は議員としての活動の根幹です。

議員の任期は4年間で、委員会の構成は2年単位で変わりますが、根幹となる活動が揺らぐことのないよう、残された任期の間に活動方針を検討し、将来にわたる広報・広聴活動の道筋を作っていきます。

平成30年度 議会報告会のお知らせ

町民の皆さまに議会での審議の経過や結果をご説明するために議会報告会を開催しています。

- 11月15日(木)
西春別ふれあいセンター 19:00-21:00
- 11月16日(金)
尾岱沼地域センターきらくる 15:00-17:00
別海町交流館ぷらと 19:00-21:00

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 小林 敏之 副委員長 森本 一夫 委員 西原 浩・松壽 孝雄・小椋 哲也

頻発する自然災害に備える！

9月6日に発生し、道央を中心に甚大な被害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震。

当町においては、揺れによる直接の被害こそありませんでしたが、約2日間にわたる停電が生活と産業を直撃しました。今回の震災で改めて日頃の防災対策がいかに大切かを痛感したところです。

頻発する高潮被害への対策は

近年、過去の傾向と異なり、北海道にも台風が頻繁に上陸し、冬期に発生する爆弾低気圧も今や異常気象ではなく、毎年のように生まれています。

そこで、7月9日に沿岸部の高潮対策などについて調査してきました。

尾岱沼地区については高台の下に民家や店舗、漁業関係の重要施設が多数あることから、2メートルを超える防潮堤を約1・3キロメートル整備する計画です。根室港で整備した防潮堤と同様のもので、今後工事の詳細が決まり次第、住民

説明会などを実施します。工事着工は平成32年以降を予定しています。

床丹地区は浸水しやすい地域会館前の排水設備を強化し、沿岸部の道路が寸断されても緊急使用できる林道が森林組合の協力のもと確保されています。

本別海地区については年に数回浸水被害が発生しており、防潮堤を設けるための基本設計を行っている段階です。

走古丹地区は、簡易ではありますが大型の土嚢を使用した防潮堤で対策が行われている状況です。

しかし、以前とは浸水箇所が変化するなど傾向が変わってきているため、対策について慎重な調査が必要です。

沿岸部の高潮対策は津波対策も兼ね、住民の生活と漁業に直結する災害対策となるため、今後も重点的に検討を行っていきます。

災害に強い地域をつくる

8月26日に地域合同防災訓練が開催さ

れました。

震度6弱の地震が発生したと想定し、町全域の3地区11町内会に加えて、消防や自衛隊も参加する大規模な訓練です。

要救助者の搬送訓練や情報伝達訓練、災害に関するセミナーや炊き出し実演などが行われました。

災害対策に関する知識と経験を深め、地域が連携し、自治体の対策について理解を深める防災訓練は、災害対策の力ギになると考えています。

当委員会としても今回の震災の経験を活かし、さらに災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。



自衛隊と赤十字奉仕団による炊き出し訓練

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 戸田 憲悦 副委員長 今西 和雄 委員 中村 忠士・木嶋 悦寛・大内 省吾

地域包括ケアシステムに注目

当町は現在、人口も減少傾向にあり、

高齢化率は平成27年度26・3%(高齢者が21%を超えると超高齢社会の状況)です。

高齢化がさらに進み、医療介護サービスの需要が増大してゆく中で、将来に向けて介護保険制度を維持し、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるためには、医療・介護・住まいと生活支援・介護予防を相互に連携して進め、高齢者を取り巻くさまざまな課題に対応した施策を進める必要があります。

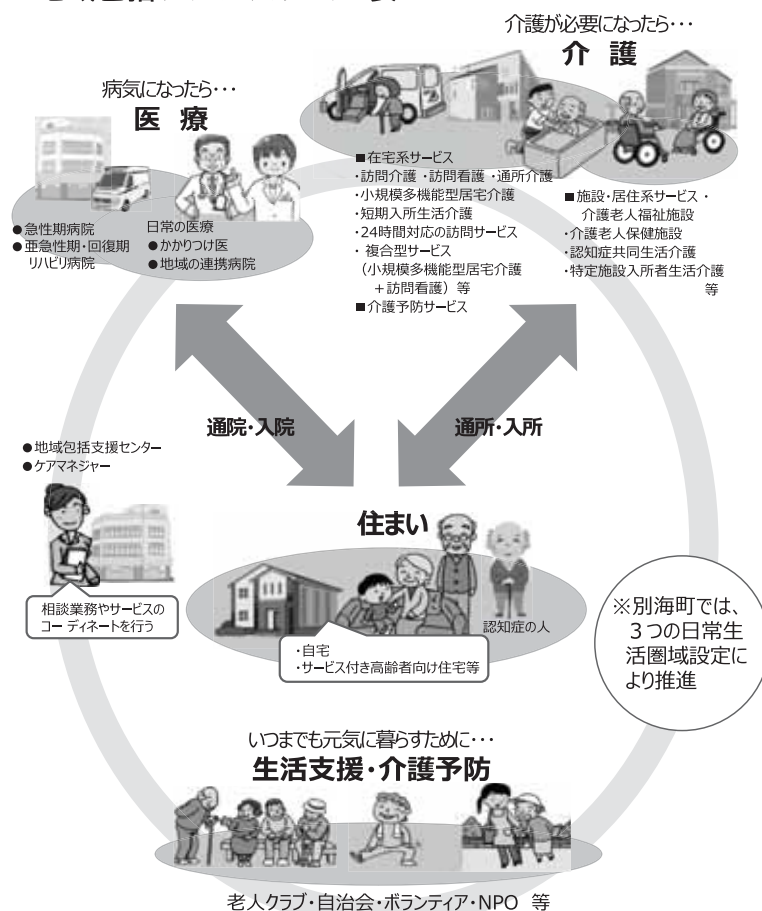
健康で年を重ねるためのまちのサポート

当町には、医療機関として別海町立病院・診療所・歯科医院・薬局をはじめ、特別養護老人ホーム清翠園・認知症対応グループホーム・通所系デイサービス・訪問系サービス・リハビリテーション・小規模多機能ホームなど公営、民営を含め各種施設がそれぞれの分野を担っている。

ます。

社会福祉協議会・地域包括支援センター
居宅介護支援事業所・ケアマネジャー、
ボランティア団体が公助・共助を担い、
各町内会・老人クラブ・サロン・平成寿
大学などへの参加を通じて地域社会との
つながりが保たれています。

▼地域包括ケアシステムの姿



厚生労働省「地域包括システム」より

まずは地域包括支援センターに相談を

地域包括ケアシステムはこれらの組織が機能連携により構築されるものと考えます。

介護保険事業の新たなサービスとして導入計画されるものは、老健すこやか短時間リハビリサービス。

また、東部地区へは今後建設計画の介護施設に、サロンの機能を併設することを検討しています。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 沓澤 昌廣 副委員長 渡邊 政吉 委員 佐藤 初雄・瀧川 榮子・外山 浩司

バイオマス発電施設を継続調査

バイオマス発電施設は、原料の確保や消化液の販売、機器の修理などに課題を抱え4億7000万円の累積赤字が示されました。

当委員会の主な質疑内容

- 食品残さの搬入が町内から見込めない場合、町外から受け入れるのか。
- 消化液の運搬費用を含め、見直す時期にきているのではないか。
- 消化液は施設利用農家にのみ搬出するとしていたが、搬出先を広げる考えはあるのか。
- 計画では第2、第3のバイオガスプラントという構想もあったが、現状では難しい。他自治体におけるバイオガスプラントの状況はどうか。
- 黒字に転換するというのは相当難しいと考えるが、会社から何らかの相談があるか。

産業振興部による主な説明

- 食品残さは、町外からも搬入し、発電効率を上げていく。
 - 輸送の課題を解決するため、サテライト機能を持つ貯留槽の設置など検討されている。
 - 消化液の利用促進のため、町外の畑作農家への販売や施設利用酪農家以外への販売なども考えられる。
 - 鹿追町のバイオガスプラントは、畑作農家への消化液の還元がメインで、よく利用されており経営は順調である。上士幌町では、農協が経営し、利用農家の協力も強く成り立っている。
 - 今後の経営改善計画の中で対策を検討する方向性が示されている、など説明がありました。
- 産業建設常任委員会として経営安定に向け、調査を継続していきます。

まとめ

別海バイオガス発電株式会社の概要・現状

出資比率

三井E&Sエンジニアリング70%、
別海町15%、中春別農協11・4%、
道東あさひ農協3・6%

稼働までの概要

平成25年10月

別海バイオガス発電株式会社設立

平成26年5月 建設着手

平成27年7月 稼働

当初計画

家畜排せつ物280トン/日、食品残さ5トン/日、発生メタンガスで1日2万6000kw 年間計算で一般家庭2800戸分の発電量

発電量

1年目、目標の52% 2年目57%
3年目72%

累積赤字

3年間で4億7000万円

赤字の原因

- ・ 長わらの混入が多いなど発電効率の悪い固形ふん尿が8割を占め、粉砕する機械の故障を繰り返したため、修理費が高額になった。
- ・ 副産物の消化液は、良い肥料になるものの輸送効率の課題から販売利益が伸びなかった。

東川スタイルに学ぶ

7月2日 東川町



東川ならではのコンセプトは書籍化されている

写真文化首都を宣言、写真甲子園の開催、上水道のない町、日本語学校の設立、東川町株主制度の設立など、東川町は独自に行っている政策が数多くあります。その結果、移住定住による人口の増加、海外からの移住および観光客の増加など、全国から注目される町となっています。このような特色ある地域をどのように作り上げていったのか、東川町を視察し、

町長、議長、担当職員の方々にお聞きしました。

まずは、住民の声を代表している議会とともに町のコンセプトを条例として形にすること。

そして「予算がない」「前例がない」「他ではやってない」をやらない理由にせず政策立案し実行する。

これにより職員の意識が変わり、地域も変わっていったそうです。

町を取り巻く環境は異なりますが、学べきスタイルが数多くありました。

(小椋議員)

恵庭市議会の議会改革の取り組み

7月4日 恵庭市

恵庭市議会では、市民の皆さんにわかりやすく開かれた議会づくりと市民の信託に応えるため、さまざまな議会改革に取り組んでいます。

平成26年には市民アンケートを実施、平成29年には市議会フェイスブックを開設、ホームページの改善を行い市議会の機能強化に努めていました。

また、「恵庭市スポーツ振興まちづくり条例」「恵庭産のビール等による乾杯を推

進する条例」を議員発議で制定するなど政策立案機能を強化していました。

当議会からは議会報告会、意見交換会の実施や議会モニター制度などのこれまでの議会活性化の取り組みを紹介しました。

両議会で見聞交換し、改めて自治体議会の役割の強化や機能強化の必要性を確認しました。

(西原議員)



恵庭市役所前で視察後に撮影

国立公園のような 景色の色丹島

7月20日～23日 色丹島訪問

今回のビザなし交流は、元島民、議員（国会、道議会、市町村）、返還運動に携わっている人など20代～80代の65名の参加でした。元島民の中には、子どもや孫と一緒に参加した人もいました。

訪問先は、表敬訪問、日本人墓地墓参をはじめ、教育施設・水産加工場などを見学しました。発電所は、日本の援助で平成11年に建てられ、現在も島の各家庭



住民討論会に参加し堂々と意見を述べていた高校生

の電力をまかっています。

住民交流会では、高校生の参加もあり、整備の遅れている道路やごみ処理の問題に悩んでいること、就職か進学で若者が島から離れ、高齢化が心配されていること、学校ではいじめなどはなく、楽しく学んでいること、などの話がありました。直接住民の方と接し、日本への期待と友好関係の強さを深く感じました。

領土問題には難しさもありますが、小さな交流を継続し、一つひとつ積み上げていくことが領土問題解決の基礎になると確信しました。

（外山議員）

進化する見出しに注目

8月21日～23日 札幌市ほか

議会と住民の皆さんとのコミュニケーションに重要な役割を果たす議会だよりですが、より良い誌面の作りのために視察研修を行ってきました。

北海道町村議会連合会の議会広報研修会への参加、当別町議会および大樹町議会との意見交換、北海道じゃらん編集部

の視察を実施しました。

研修会では実際の議会だよりを専門家にってもらい講評をいただくクリニックを受け、じゃらんでは編集長から誌面作



じゃらん編集の極意を享受してもらう

りの方針や手法などを具体的に教えていただきました。

奇しくも双方で、最も大切で今の誌面に足りないのは「見出し」であると学びました。

本文の要点を表し、読者に何を伝えたいのかを端的に表現する見出しをつけることで、誌面の読みやすさが大幅に向上します。

早速、本号から「見出し」の工夫を行っていますのでご覧ください。

（広報・広聴常任委員会）

自然の恵みを味わう別海グルメ



チリチリと静かに燃える炭火にじゅくりと炙られ、じゅ
うじゅと音をたてながら余分な脂と水分が抜け、旨味
が凝縮した西別鮭が食欲を刺激する。

あめ色に焼き上げられた大ぶりの切り身にかぶりつく
と、まず香ばしさがたち、かみしめるたびにホロホロと
口の中に広がる濃厚な鮭の旨味がたまらない。まさに別
海を代表する秋の味覚だ。

当町は一次産業が基幹の町である。言い換えると「食
料を生み出す町」ということである。

その食材の本場として、地元ならではの美味しいグル
メが数多く存在する。

表紙写真の鮭の串焼き、秋味鍋に鮭の飯寿司、ホッキ
ご飯に北海シマエビを活かしたシマエビ天丼や新ご当地
グルメのジャンボホタテバーガーなど。

乳製品はチーズにアイスクリーム、ソフトクリーム、
最近ではブランド牛も生まれ、牛肉を使った美味しいメ
ニューも味わえる。

地方創生が声高に叫ばれ、地方にとって地域活性化が
大きな課題のひとつとなっている。

自然からの限りある恵みを糧としている当町としては、
一次産業の持つ価値を高める取り組みが求められ、農水
産物の生産のみにとどまらず、加工・販売まで地域で手
掛ける6次化を進める機運が高まっている。

6次化に向けた取り組みは全国各地で行われている
が、苦戦している地域が多いという現実もある。

生産地で愛されている「別海グルメ」。まずは地元の人
々が存分に味わい、その素晴らしさを楽しむことが、「ま
ちの宝物」を生み出す第一歩となるのではないだろうか。

(小椋委員)

編集後記

電気のある明るく便利な生
活に慣れてしまった現在の暮
らしにもたらされた、北海道
胆振東部地震による全道全域
大規模長時間停電という未曾
有の事態は、私たちに大きな
衝撃を与えました。

いまだその影響は各種産業
に残り、万全な状態への復旧
にはいたっておらず、不安を
感じていらっしゃる方も多い
と思います。議会としても今
後の災害対策に関する検証と
議論を深めていきたいと思
っています。

厳しい雪の季節がすぐそこ
まで来ています。限りある資
源や環境のことも考えつつ、
万が一に発生する災害に備え
て、一人ひとりができる備え
を今すぐに始めましょう。

震災で犠牲になられた方々
の方々の冥福を心よりお祈り
するとともに、被災された皆
さまが、一日も早く正常な生
活に戻られることを願って、
お見舞いを申し上げます。

(広報・広聴常任委員会)

委員長 今西 和雄

うがい・手洗い励行と予防接種で「インフルエンザ」撃退!!